

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 26 年度第 1 回 FD 情報技術講習会運営委員会議事概要

- I. 日 時：平成 26 年 9 月 30 日(火) 17:00 から 19:00 まで
II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、会議室
III. 参加者：高橋担当理事、田宮委員長、竹内委員、今井委員、家本委員、山本ト^ホバ^イ伊^ダ
及川委員、朽尾委員、渡辺ト^ホバ^イ伊^ダ(左記 3 名 Skype)、
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

1. 今年度の事業計画

私立大学における教員の教育技術力の向上を支援するため、全国の大学・短期大学を対象に「FD のための情報技術研究講習会」を学外 F D として継続実施し、事前・事後学修を促進するための電子書籍型教材の作成、学生参加型の授業の工夫、学生が能動的に学ぶための授業方法など ICT を活用した教育手法の習得を目指す。その際、主体性を引き出す授業の工夫、アクティブ・ラーニングによる教育実践の紹介、反転授業の紹介と教育効果、コンテンツの作成・活用に伴う著作権関連の知識について情報提供を行うとしている。

2. 昨年度アンケート意見について

- ・ 共通講義では「理解できた」「概ね理解できた」が 98%で、難易度は普通が 93%だった。役立ったとの意見が見られ、努力するしかないや自らやるしかないとの理解が促進された。
- ・ 電子書籍型教材作成コースでは、ソフトへの理解が進み、学生への思いが深められるなど概ね評価が得られた。著作権についての希望があった。
- ・ LMS 活用コースでは、アクティブラーニングの敷居が高かったが無理しなくても良いと理解が進んだ、教員の協力についての意見もあった。開催期間は短縮の希望があった。
- ・ 授業マネジメントコースでは、具体的な事例を期待された意見があった。アクティブラーニングの手法や考え方の理解を図ったが、参加者によって評価は分かれたが、授業に活かしていく意見が見られた。

3. 講習会開催に向けての委員の意見

- ・ 事例の紹介と「こんなふうにやっています」など教えて欲しいの希望が多いか。学生の主体性については理解が進んだか。
- ・ アクティブラーニングのイメージをつくってあげる必要があるか、どのように ICT で促進することができるのかが求められているのではないか。教員の中では、できない学生などに対するアクティブラーニングが課題とされている。対話の評価では学生の相互評価があるが学士力にどのように結びつくのか。全科目で実施した場合に学生の負荷が大きい。全学でのカリキュラム再編の取り組みを考える必要がある。
- ・ 教えなくてはならないものがある、科目間の調整の必要があるのではないか。
- ・ 医学は 1 年生からの臨床など世界基準が求められ、1 年からの実習が始まっている。カリキュラムの再編として大学課題で医学の例を共通講義で実施してはどうか、その際、医学の話

だけではないとの補足が必要。

- ・ 底辺を救う引き上げる対策を聞きたいのではないか。チャレンジしてる事例が出せないか。学生相互で気づきを与えるなど。
- ・ 初年次から基礎ゼミ、例として高校時代からの背景があり参加しないなど課題、何かを持っているので切っ掛けや作業が必要。初年次教育の取り組みとしての事例が必要ではないか。例えば学修の基礎として全学で学びのホームルームの取り組みがある。基礎ゼミは出席率が高く、退学率低下の実績が見られる。
- ・ 共通講義ではカリキュラム再編、初年次教育の取り組みのイントロ部分から事例として数件を考えたい。事前学修としてビデオ視聴を考えたい。著作権の内容も含めてはどうか。時間として午前中を伸ばしても良いのではないか。
- ・ 共通講義を伸ばした場合、2, 3日の開始は9時にしてはどうか。

4. 各コースの検討

- ・ 電子教材型教材作成コースは、Prezi と電子書籍の流れとして継続してはどうか。
- ・ 授業マネジメントコースは、模擬授業の体験ではどうか、ただしそれで全てではないことへの理解させる必要がある。考えて解決を見いだすことにしているがそこが評価がわかれている。教えてもらう希望が多いことから、例えば、デモ授業を2件入れてそれを解説、租借して体系化してはどうか。共通講義の講師を午後に残ってもらってもう一度登壇いただく。反転授業では文系のものを求められている。話を見せるか模擬講義から意見を聞きながら討議を行う。今回は自らのものは無しで、反転授業として学んで講評に対して再評価をさせてはどうか「反転授業コース」にしてはどうか。
- ・ LMS 活用コースは、事例・使い方を増やし継続してはどうか。担当委員をマネジメントコースから移動することを考えることにした。

5. 日程、場所について

- ・ 2月25日（水）から27日（金）の設定で、会場を追手門学院とすることにした。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回は開催要項の確定に向け、11月中旬までに2回程度委員会を開催して検討することにした。日程はメールで調整することにした。